

## 北海道美瑛高等学校

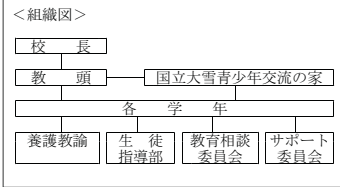
課程 全日制  
 学科 普通科  
 生徒数 160名

### 1 取組の特徴

国立大雪青少年交流の家から講師を招いて、授業や宿泊研修において生徒のコミュニケーションスキルを高めるエクササイズを実施したり、本事業に係る校内研修を実施して教職員の共通理解を図ったりするなど、交流の家との連携により、生徒のコミュニケーションスキルを高める取組を進める。

### 2 取組のねらい

周囲とのコミュニケーションを苦手とする生徒が増えており、対人関係のトラブルや学校生活への不適応などが課題となっている。  
 要因として、学校生活全般に対する意欲の低下やコミュニケーション能力の不足が考えられる。  
 こうしたことから、学校環境適応感尺度（アセス）を実施することにより生徒の学校生活への適応状況を把握することを通して生徒への対応や指導の充実を図るとともに、グループエンカウンターなどのコミュニケーションスキルトレーニングを通して、学校生活や社会生活において求められるコミュニケーションスキル及び望ましい人間関係を築き自己成長できる力の育成を図る。



### 3 取組の経過

- 6月3日（金）、29日（水）
  - ・国立大雪青少年交流の家との打合せ
- 7月13日（水）
  - ・1年生体育（男女）の授業においてグループエンカウンター実施
- 7月13日（水）
  - ・1年生を対象に「アセス」実施
- 8月1日（月）
  - ・高校生ステップアップ・プログラムについての校内研修会
- 9月14日（水）
  - ・1年生宿泊研修においてコミュニケーション能力を高めるプログラムを実施
- 12月21日（水）
  - ・全学年を対象に「アセス」実施
- 2月23日（木）
  - ・職員会議において本事業の成果の報告と次年度の取組内容の確認

### 4 取組の内容

- 1 1年生体育（男女）の授業におけるグループエンカウンター
- (1) 日時 平成23年7月13日（水）
  - (2) 対象 1年生全員（49名）
  - (3) ねらい スキンシップや人との関わり方について体験的に学ぶ
  - (4) 内容 「人数指定によるグループ作り」、「人間知恵の輪」など
  - (5) 成果  
 高校生ステップアップ・プログラムの最初の取組として実施した。国立大雪青少年交流の家の所員の指導のもと、生徒はエクササイズを通して相互の親交を深めた。



### 2 「アセス」の実施（第1回）

- (1) 日時 平成23年7月13日（水）
- (2) 対象 1年生全員（49名）

### 3 1年生宿泊研修における取組（コミュニケーション能力を高めるプログラム）

- (1) 日時 9月14日（水）
- (2) 対象 1年生全員（47名）
- (3) ねらい プログラム全体の中に、生徒同士が会話をしたり、生徒同士の協力によって課題を解決する活動を意図的・計画的に組み込み、双方向のコミュニケーションによる人間関係を築くことの大切さに気付かせる。
- (4) 成果

国立大雪青少年交流の家の所員の指導のもと、生徒は熱心に取り組んだ。話し合い等の活動を通して、生徒間でHRの課題を明らかにし、共有することができた。



### 4 「アセス」の実施（第2回）

- (1) 日時 平成23年12月21日（水）
- (2) 対象 全学年（1年生46名、2年生56名、3年生49名）

### 5 次年度に向けて

#### 1 成果

- (1) アセスの調査結果の分析により、学校生活への適応状況や、学習状況や友人関係などにおいて支援を要する生徒を把握することができ、生徒理解の深化が図られるとともに、生徒指導体制の一層の充実につながった。
- (2) 1年生について、2回目のアセスでは1回目のアセスと比較して、友人関係や教師との関係が良好となったことを示す数値が表れた。
- (3) 1年生について、前年度の1年生と比べ、中退者や保健室来室者が減少した。

#### 2 課題

- (1) 生徒によっては、トラブルが発生した際に話し合いを拒否する場面が見られるなど、課題が見られ、人間関係づくりの取組の実践を、一層充実させる必要がある。
- (2) 生徒同士がコミュニケーションを図りながら活動する場面を意図的・計画的に設定して、生徒のコミュニケーション能力を高めていく必要がある。

#### 3 次年度に向けて

- (1) 今年度は1年生を中心に取組を進めたが、次年度は2年生においても継続して取り組むとともに、他の学年にも広げ、全校的な取組として充実させたい。
- (2) 取組を進めるに当たっては、国立大雪青少年交流の家とさらに連携を図り、宿泊研修をはじめ、授業における取組を一層拡充し、生徒のコミュニケーションスキルを一層高めていく必要がある。